

「山元町の復興まちづくりに関する意向調査」 集計結果のまとめ

平成23年9月

山元町震災復興推進課

「山元町の復興まちづくりに関する意向調査」集計結果

1. 調査の目的

東日本大震災により被災した山元町の復興計画を策定するにあたり、町民の被災状況や今後のまちづくりに対する意見を把握するため。

2. 調査項目

(1) 今後の住まいと就業について

- ①住宅の被災状況
- ②今後希望する居住地
- ③今後希望する住居形態
- ④就業について

(2) 今後のまちづくりについて

- ①まちづくりに重要な都市機能や施設
- ②望ましいまちづくり
- ③必要だと思う防災対策
- ④今後の交通機関の在り方

(3) 回答者の属性について

3. 調査方法

○対象

平成23年3月11日を基準日とし、山元町に住民登録をしている全世帯

○配布・回収方法

各行政区の班長が回覧文書とともに調査票を全戸配布、班長が回収。(※町外の方へは郵送)

○調査期間

6月22日(水)から8月31日(水)まで

4. 回収結果

配布数：5,561票

有効回収数：3,589票

回収率：64.5% (8月31日現在)

5. 報告書の見方

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示しています。
- (2) 小数点第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率を合計しても100.0%にならない場合があります。
また、回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、それぞれに比率を算出しているため、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超えるようになっています。
- (3) 図表及び本文で、選択肢の語句などを一部簡略化している場合があります。

6. 集計結果の整理

ここでは、以下の2点を基準とし、将来のまちづくりや防災に関する設問項目ごとに整理しています。

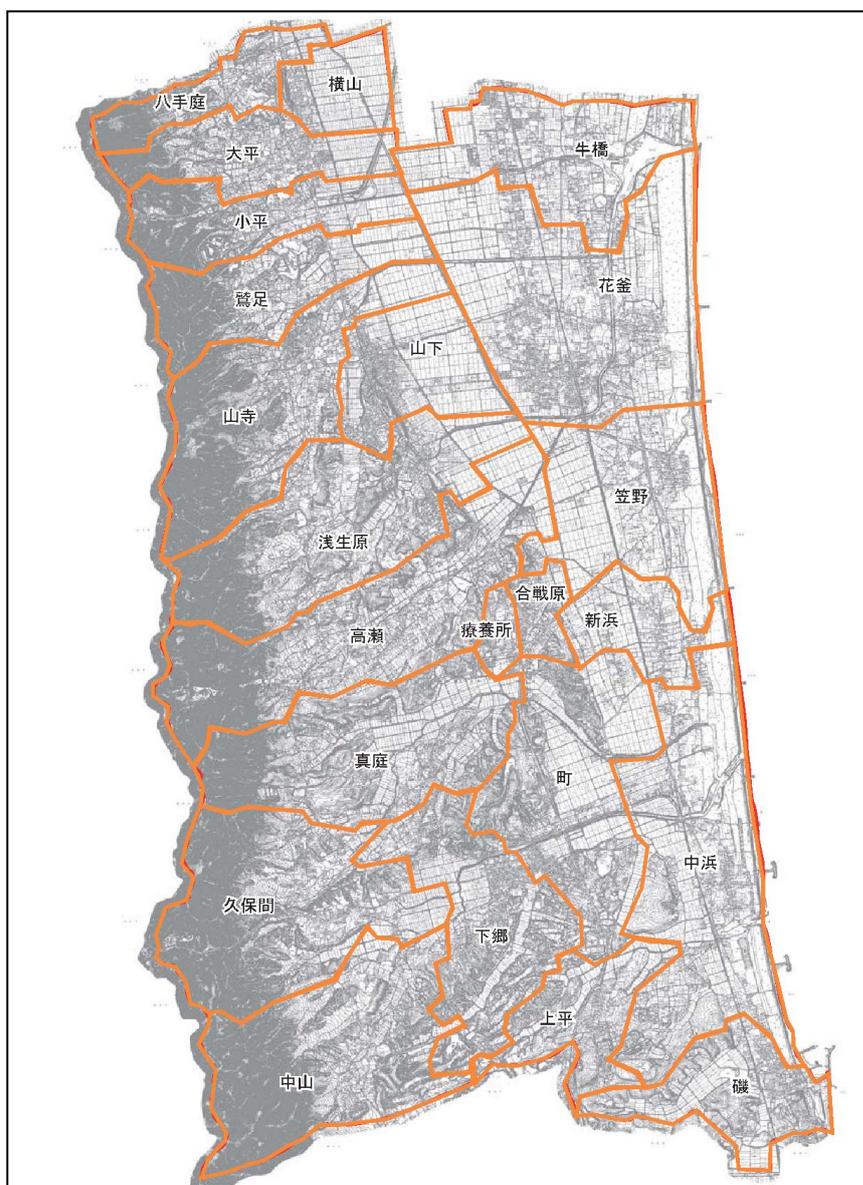
- ①22 行政区 ②JR常磐線を境にした東西エリア

(1) 地区別集計結果

・以下は、「山元町の復興まちづくりに関する意向調査」の最終的な集計結果 3,589 票の集計結果です。

・居住行政区別で最も多く回収できた地区は、花釜 539 票、次いで山下 234 票、牛橋 229 票の順で、JR常磐線の東西エリア別では約8割がJR常磐線の西側の回収票でした。

▼行政区区分図



| 行政区 | 震災前の世帯数 | 回収数 | 行政区 | 震災前の世帯数 | 回収数 |
|-----|---------|-----|-----|---------|-----|
| 八手庭 | 71 | 43 | 久保間 | 79 | 54 |
| 横山 | 144 | 90 | 中山 | 70 | 47 |
| 大平 | 244 | 179 | 下郷 | 291 | 201 |
| 小平 | 76 | 47 | 町 | 285 | 176 |
| 鷺足 | 103 | 86 | 上平 | 111 | 43 |
| 山寺 | 211 | 136 | 磯 | 151 | 75 |
| 山下 | 460 | 265 | 中浜 | 314 | 190 |
| 浅生原 | 347 | 190 | 新浜 | 87 | 47 |
| 高瀬 | 316 | 197 | 笠野 | 245 | 169 |
| 合戦原 | 101 | 83 | 花釜 | 1,023 | 624 |
| 真庭 | 193 | 144 | 牛橋 | 480 | 273 |
| | | | 無回答 | — | 230 |

<最終結果>

配布数：5,561通

有効回収数：3,589通

回収率：64.5%

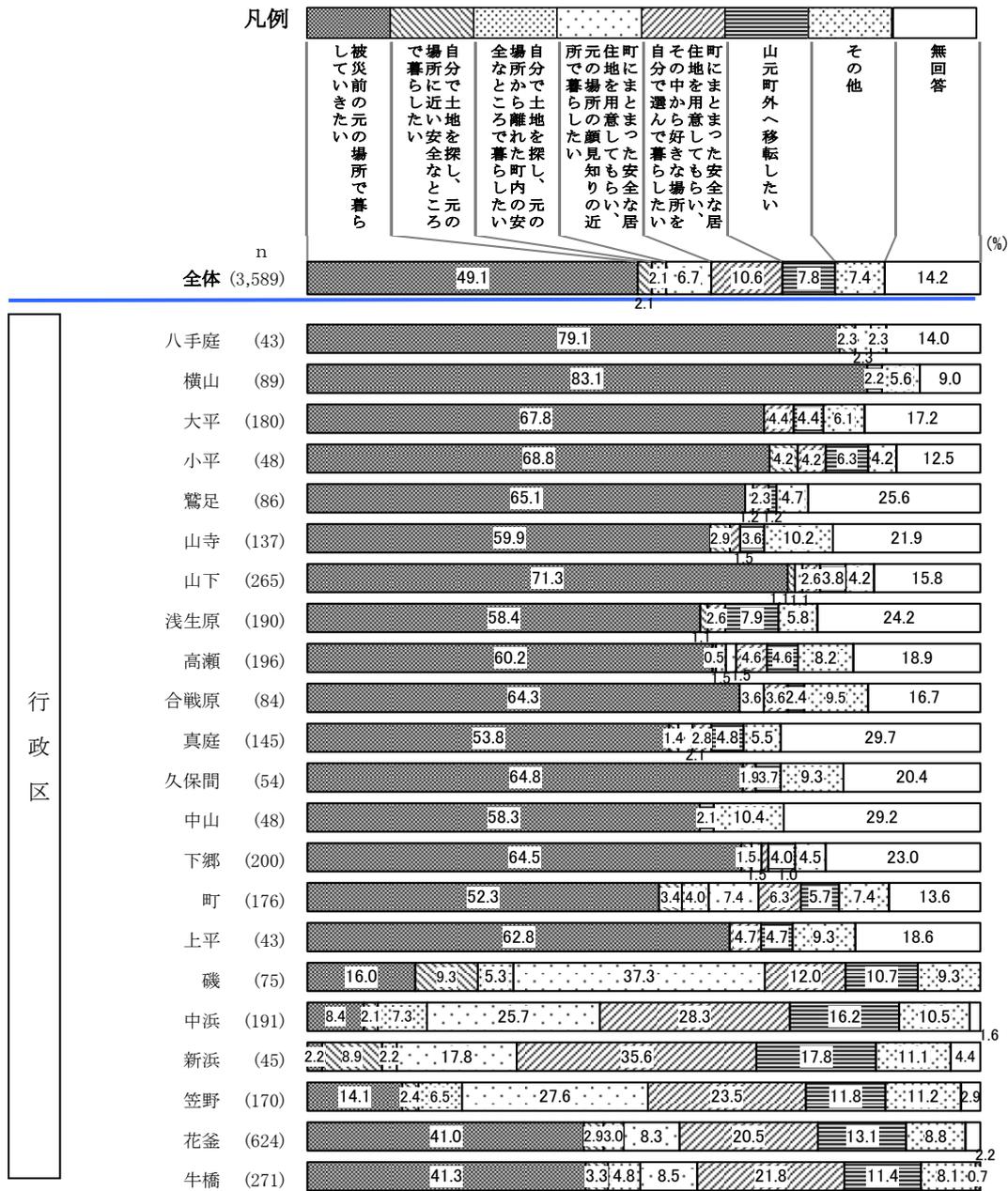
(1) 今後の住まいと就業について

① 今後希望する居住地について

今後新たなまちづくりを進めるにあたり、希望する居住地(＝移転の有無)についてお聞きしました。

「被災前の元の場所で暮らしていきたい」との回答が約半数(49.1%)

問 4(1) 今後の居住地はどちらをご希望ですか。(○は1つだけ)

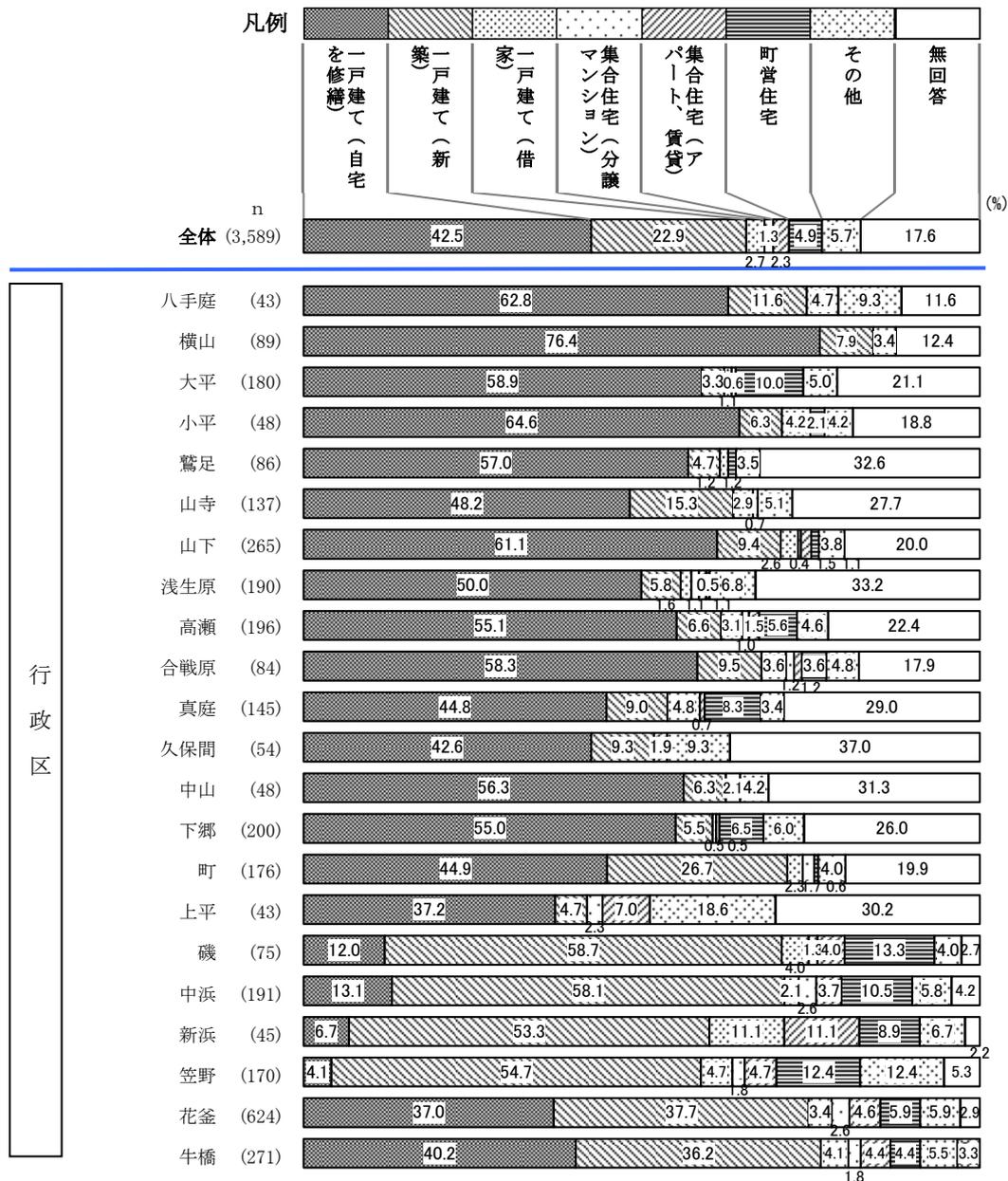


- 全体で最も多かったのは、「被災前の元の場所で暮らしていきたい」が49.6%で、町内で居住地を希望する人が全体の約7割でした。
- 居住行政区別にみると、沿岸地区の磯、中浜、新浜、笠野、花釜、牛橋地区の住民は「町にまとまった安全な居住用地を用意してもらい、暮らしたい」と考えている人が他の地区に比べて多い結果となりました。
- 特に、磯、中浜、笠野地区では、住民の約半数以上が町の用意する安全な場所への居住を希望しているという結果が出ました。
- 一方、中浜、新浜、笠野、花釜、牛橋地区では「町外へ移転したい」と回答している住民が約1割以上と他の地区に比べ多い傾向も見られました。

② 今後希望する住居形態

全体の 68.1%が一戸建てを希望

問 4(2) 今後のお住まいはどのような形態をご希望ですか。(〇は1つだけ)



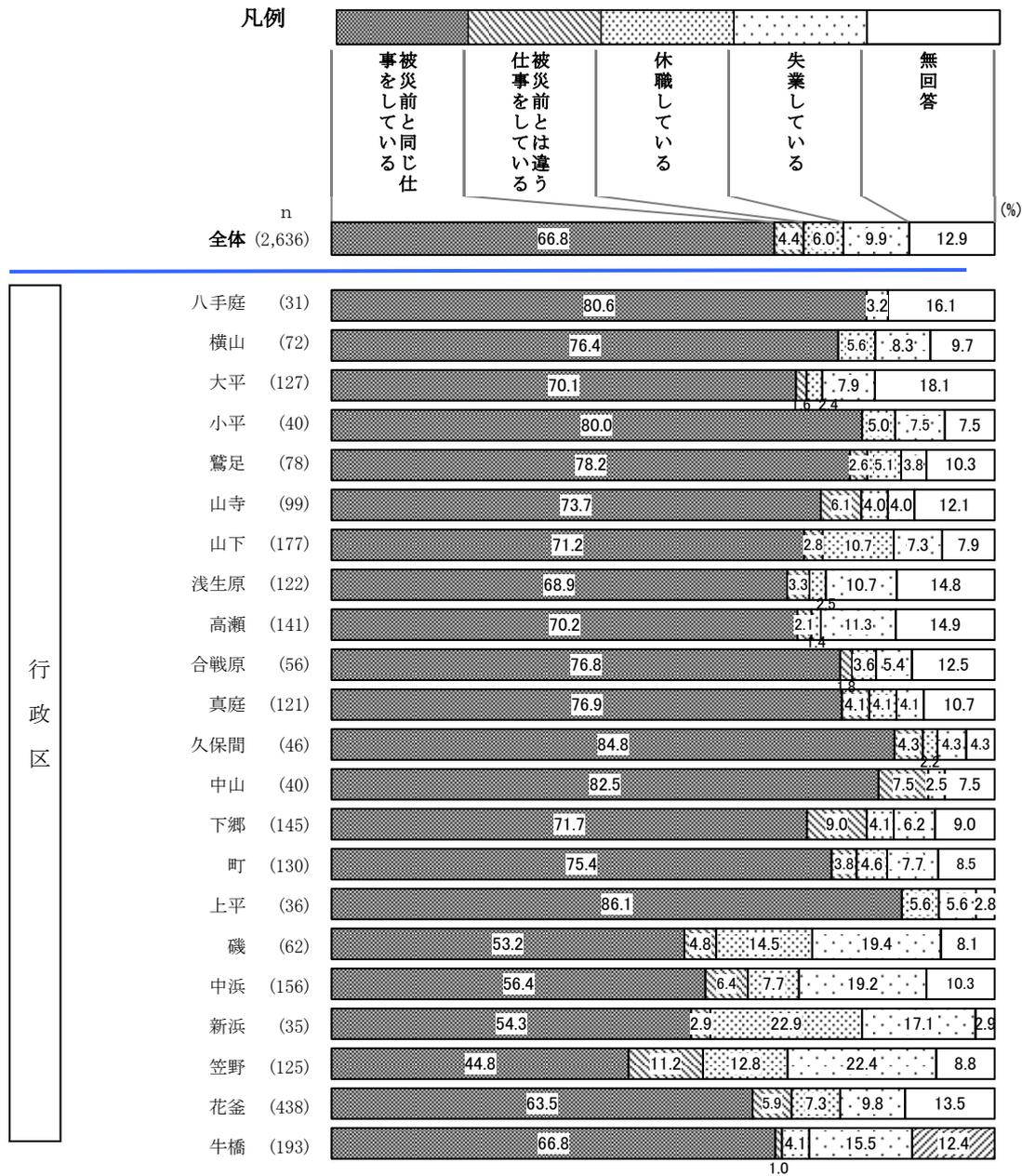
・ 今後希望する住居形態について、「一戸建て(自宅を修繕)」(42.5%) が最も多く、次いで「一戸建て(新築)」(22.9%) が多い結果となりました。また、集合住宅を希望する回答は、1 割以下でした。

・ 居住行政区別にみると、横山地区では「一戸建て(自宅を修繕)」と回答した世帯が 76.4%で、また磯、中浜、新浜、笠野地区では「一戸建て(新築)」と回答した世帯が過半数となっています。

③現在の就業状況

全体の66.8%が「被災前と同じ仕事をしている」と回答

問1(6) あなたの現在のお仕事の状況はいかがですか。(〇は1つだけ)

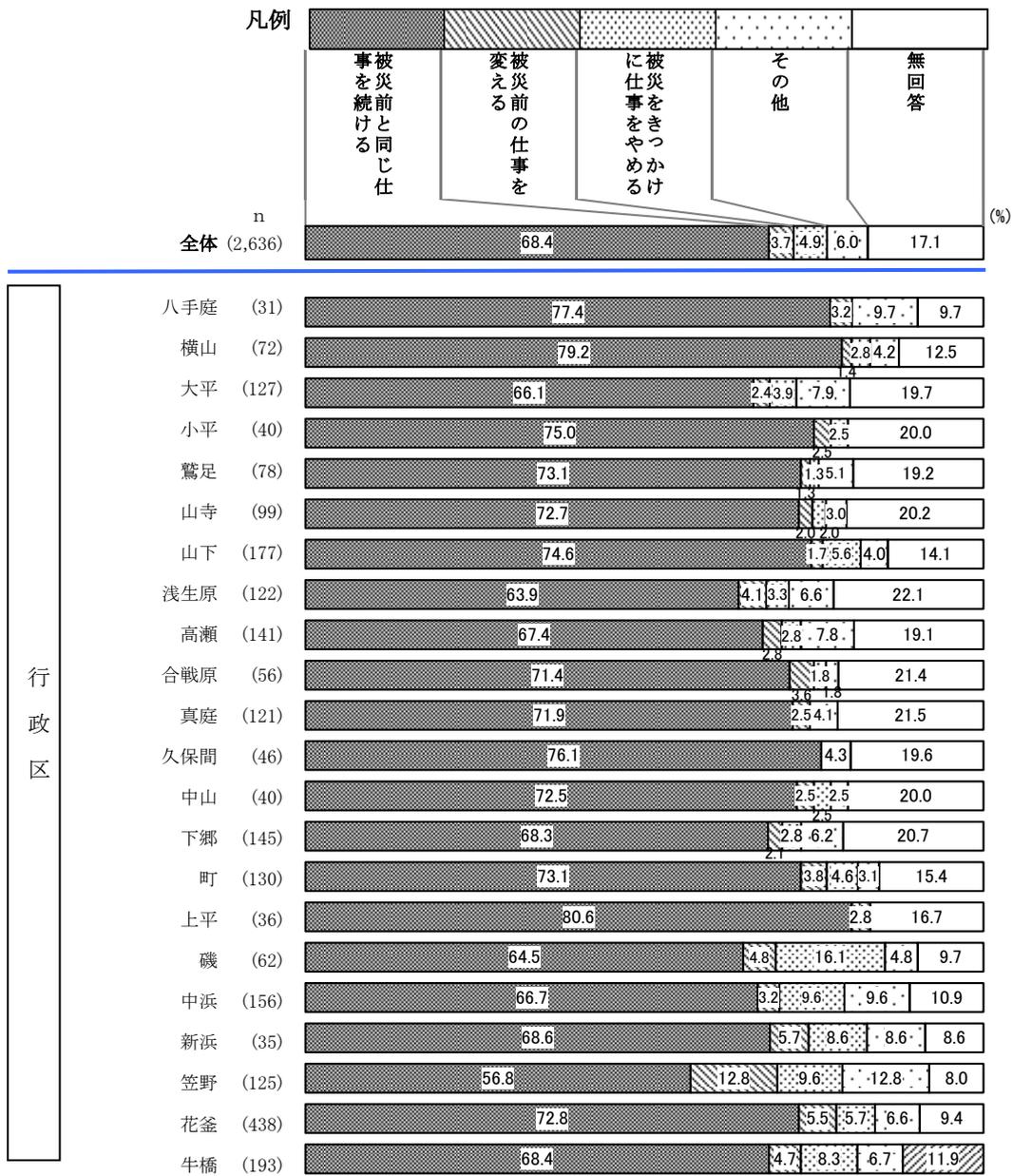


- 現在の就労状況についての回答は、「被災前と同じ仕事をしている」が66.8%でした。
- 居住行政区別にみると、「失業している」との回答は磯、中浜、新浜、笠野、牛橋地区で15%以上と高い結果となりました。

④今後の就業希望

住民の 68.4%が「被災前と同じ仕事を続ける」ことを希望

問 4(4) 今後の就業についてどのようにお考えですか。(○は1つだけ)



・今後の就業について、回答の 68.4%が「被災前と同じ仕事を続ける」ことを希望していて、「被災をきっかけに仕事をやめる」(4.9%)、「被災前の仕事を变える」(3.7%)との回答は少数みられました。

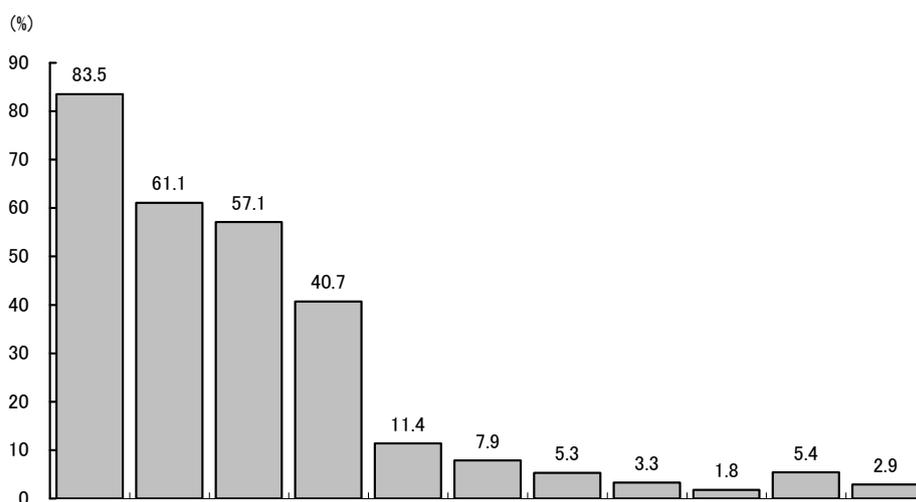
・居住行政区別にみると、磯地区では「被災をきっかけに仕事をやめる」との回答が他の地区に比べて多く、笠野地区では「被災前の仕事を变える」との回答が他の地区に比べて多い結果となりました。

(2) 今後のまちづくりについて

①まちづくりに重要な都市機能や施設

住民にとって将来のまちづくりに重要な施設は「鉄道」(83.5%)

問 5(1) 将来のまちづくりを考える上で重要と思われる都市機能や施設について、あてはまる番号を3つ選び○をつけてください。



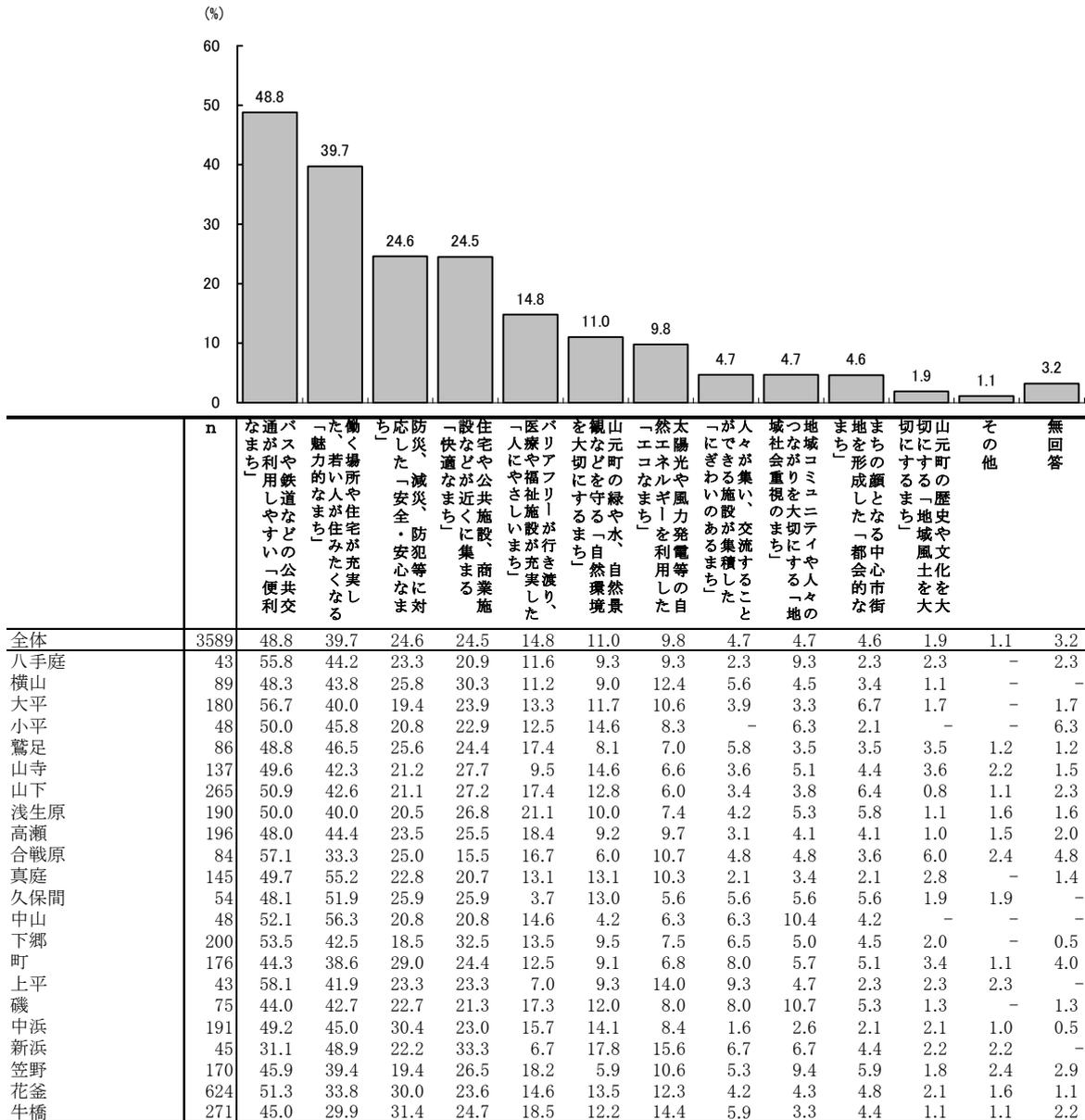
| | n | 鉄道 | 医療・福祉施設 | 道路 | 商業・業務施設 | 教育・学習施設 | 保育施設 | 公園・広場 | スポーツ施設 | 文化・芸術施設 | その他 | 無回答 |
|-----|------|------|---------|------|---------|---------|------|-------|--------|---------|------|-----|
| 全体 | 3589 | 83.5 | 61.1 | 57.1 | 40.7 | 11.4 | 7.9 | 5.3 | 3.3 | 1.8 | 5.4 | 2.9 |
| 八手庭 | 43 | 81.4 | 69.8 | 51.2 | 30.2 | 16.3 | 7.0 | 7.0 | - | - | 7.0 | 4.7 |
| 横山 | 89 | 84.3 | 51.7 | 55.1 | 43.8 | 15.7 | 10.1 | 6.7 | 1.1 | 1.1 | 6.7 | - |
| 大平 | 180 | 76.7 | 64.4 | 51.1 | 42.8 | 11.7 | 10.6 | 8.3 | 8.3 | 1.7 | 4.4 | 1.7 |
| 小平 | 48 | 85.4 | 58.3 | 62.5 | 35.4 | 16.7 | 8.3 | 2.1 | - | 4.2 | 8.3 | 2.1 |
| 鷺足 | 86 | 82.6 | 62.8 | 65.1 | 36.0 | 15.1 | 14.0 | 1.2 | 3.5 | 1.2 | 1.2 | 1.2 |
| 山寺 | 137 | 87.6 | 55.5 | 59.9 | 43.1 | 8.0 | 8.0 | 4.4 | 0.7 | 1.5 | 8.0 | 2.2 |
| 山下 | 265 | 89.1 | 56.6 | 53.2 | 49.8 | 11.3 | 7.2 | 5.7 | 3.4 | 1.9 | 4.2 | 1.5 |
| 浅生原 | 190 | 83.2 | 64.7 | 60.5 | 43.7 | 8.4 | 8.9 | 5.3 | 2.6 | 2.1 | 3.7 | 0.5 |
| 高瀬 | 196 | 83.2 | 58.2 | 56.6 | 41.8 | 12.2 | 10.7 | 6.1 | 4.1 | 2.6 | 5.6 | 1.5 |
| 合戦原 | 84 | 82.1 | 64.3 | 65.5 | 40.5 | 7.1 | 3.6 | 2.4 | 1.2 | 1.2 | 10.7 | 3.6 |
| 真庭 | 145 | 86.9 | 62.1 | 61.4 | 39.3 | 11.7 | 10.3 | 4.1 | 4.1 | 0.7 | 2.8 | 2.8 |
| 久保間 | 54 | 88.9 | 53.7 | 55.6 | 44.4 | 5.6 | 14.8 | 1.9 | 5.6 | - | 1.9 | 1.9 |
| 中山 | 48 | 85.4 | 62.5 | 47.9 | 39.6 | 16.7 | 16.7 | - | 2.1 | - | 2.1 | 4.2 |
| 下郷 | 200 | 88.0 | 61.5 | 60.0 | 43.5 | 5.5 | 9.5 | 6.5 | 5.5 | 1.0 | 3.5 | 1.0 |
| 町 | 176 | 86.9 | 59.7 | 60.8 | 39.8 | 7.4 | 7.4 | 4.5 | 5.1 | 3.4 | 4.0 | 3.4 |
| 上平 | 43 | 93.0 | 60.5 | 58.1 | 30.2 | 7.0 | 14.0 | 9.3 | 11.6 | - | 2.3 | - |
| 磯 | 75 | 84.0 | 68.0 | 80.0 | 33.3 | 16.0 | 2.7 | 1.3 | - | - | 5.3 | - |
| 中浜 | 191 | 85.3 | 69.6 | 68.1 | 38.2 | 8.9 | 4.2 | 7.3 | 2.6 | 1.0 | 6.8 | 0.5 |
| 新浜 | 45 | 84.4 | 55.6 | 73.3 | 44.4 | 13.3 | 6.7 | 2.2 | 4.4 | 2.2 | 4.4 | - |
| 笠野 | 170 | 82.4 | 65.3 | 48.8 | 44.7 | 18.2 | 10.6 | 5.3 | 1.8 | 1.8 | 4.7 | 1.8 |
| 花釜 | 624 | 88.3 | 63.8 | 54.0 | 41.2 | 14.9 | 6.6 | 5.6 | 2.7 | 2.2 | 7.1 | 0.6 |
| 牛橋 | 271 | 77.5 | 67.2 | 56.5 | 43.2 | 10.0 | 4.4 | 5.2 | 2.2 | 2.6 | 7.0 | 1.5 |

- 全体で最も多かったのは「鉄道」83.5%、次いで「医療・福祉施設」61.3%、「道路」57.1%、商業・業務施設40.9%の順でした。回答の上位項目以外はいずれも約1割以下の回答比率であり、上位項目である生活インフラ整備を将来のまちづくりにおいて重視していることが伺えます。
- JR常磐線を境に東西エリア別にみると、東側地域の住民と西側地域のニーズに大きな違いはなく、今後のまちづくりにおいて「鉄道」が重要であると考えられていることが伺えます。

②望ましいまちづくり

望ましいまちづくりについて、最も多かった回答は、『バスや鉄道などの公共交通が利用しやすい「便利なまち』(48.8%)

問5(2) 将来のまちづくりとしてどのような“まち”が望ましいと思いますか。(〇は2つ)

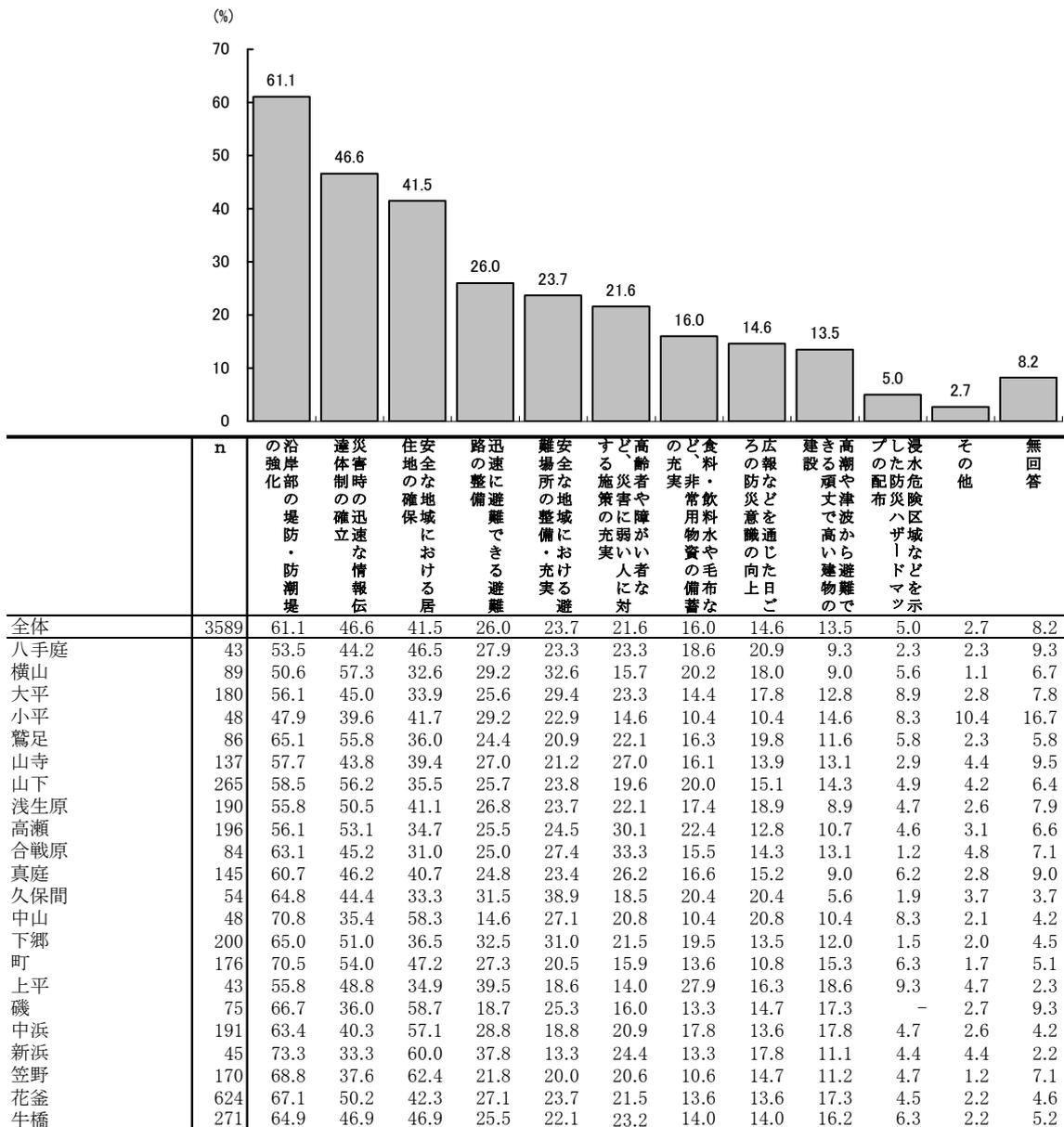


・将来の望ましいまちづくりの方向性については、『バスや鉄道などの公共交通が利用しやすい「便利なまち』(48.8%)が最も多く、次いで『働く場所や住宅が充実した、若い人が住みたくなる「魅力的なまち』(39.7%)、『防災、減災、防犯等に対応した「安全・安心なまち』(24.6%)、『住宅や公共施設、商業施設などが近くに集まる「快適なまち』(24.5%)の順となりました。

③必要だと思う防災対策

今後必要だと思う防災対策については、「沿岸部の堤防・防潮堤の強化」(61.1%)

問 5(3) 今後、本町が『災害に強い安全なまち』を目指すために最も必要だと思う防災対策(ハード対策、ソフト対策)は何だと思いますか。

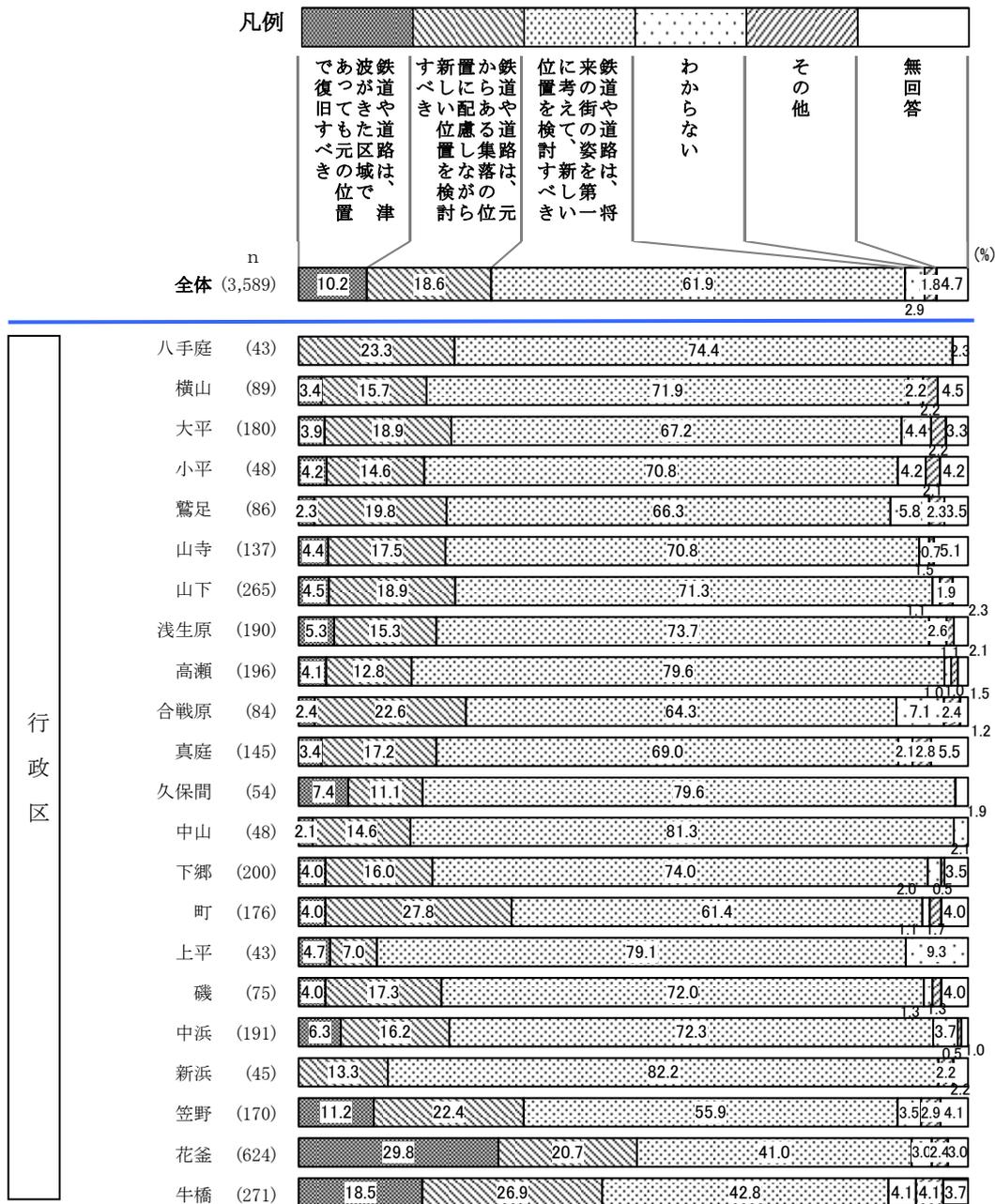


- 全体で最も多かったのは「沿岸部の堤防・防潮堤の強化」61.2%、次いで「災害時の情報伝達体制の確立」47.5%「安全な居住地の確保」40.8%の順でした。
- JR常磐線を境に東西エリア別に集計したところ、東側地域の住民は、西側地域の住民に比べて、「沿岸部の堤防・防潮堤の強化」「安全な地域における居住地の確保」といった防災や居住の観点から必要という回答が多く見られました。一方、西側地域の住民は、東側地域の住民に比べて、「災害時の迅速な情報伝達体制の確立」といった情報の観点から必要という回答が多く見られました。

④今後の交通機関の在り方

鉄道や道路を新しい位置に検討すべきと考えている住民が8割以上

問5(4) 今回の震災で、沿岸部の鉄道や主要な道路は大きな被害を受けました。今後、これらの交通機関はどうあるべきだと思いますか。(〇は1つだけ)



- 全体で最も多かったのは「鉄道や道路は、将来の街の姿を第一に考え新しい位置で検討すべき」62.2%で、鉄道や道路を新しい位置に検討すべきという回答が8割以上でした。
- JR常磐線を境に東西エリア別にみると、西側地域の住民は、東側地域の住民に比べて、「鉄道や道路は、将来の街の姿を第一に考えて、新しい位置を検討すべき」という回答が多く見られました。

7. まとめ

- 震災復興会議の要旨や意向調査の結果から、今後のまちづくりを進めるにあたっては、基本的に、津波被害（浸水被害）のない国道6号側へ居住地を形成するという方向性で捉えることができました。
- その際、JR常磐線のルートは重要であり、通学や通勤、医療・福祉施設への移動に伴う交通利便性を確保するルート設定が求められました。
- そして、商業機能や公共機能、都市サービス機能を含めた集約化による居住地の形成により、若者がこれ以上町外へ流出しない、魅力的なまちづくりを望んでいる意向が多いという結果が得られました。